

CONTENTS

大阪消防12

表紙：緊急消防援助隊近畿ブロック
合同訓練の閉会式

01：コンテンツ／災害概況	26：望楼探訪
02：特集 能登地方の大雨災害に対する 緊急消防援助隊の活動(後編)	27：令和6年度大阪市防火ポスター
04：特集 令和6年度消防局職場活性化推進 事例発表会	28：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより
10：UPDATE ～ 特別編 ～	29：市民表彰／救急安心センターおおさかだより
11：2025年大阪・関西万博	30：現場に活かす!救急救命士国家試験問題
12：ケイボウタイムズ	31：落語DE火の用心
14：コマンドアイ	32：消防漢字ガール
16：救急いろは	33：こんな声届いています！
18：実録!!調査鑑識	34：Just Do It！
20：We are Rookies！	36：一緒に備えましょ！災害いつなんどき
22：【職務】土砂埋没救出訓練を行いました！	37：教えて〇〇課！
24：大阪の消防NEWS	38：【職務】オンライン申請が可能な手続きの デジタル化について
	40：アニマル環状線／編集後記

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
10月中件数	0	0	10	34	44	5	0	0	10	59
令和6年 10月末累計	11	16	139	315	481	37	1	2	71	592
令和5年 10月末累計	16	14	113	310	453	33	1	3	92	582
累計比較	▲5	2	26	5	28	4	0	▲1	▲21	10

◎救急概況

	救急出場
10月中件数 (概数)	20515
令和6年 10月末累計	221924
令和5年 10月末累計	218350
累計比較	3574

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他の 消防活動
令和6年 10月末累計	3866	1080	0	976
令和5年 10月末累計	3680	1253	10	1052
累計比較	186	▲173	▲10	▲76

大阪府土砂・風水害機動支援部隊等の活動(9月26日～10月3日)



塚田川周辺における夜間の検索(久手川町)



海岸の検索(塚田町)



宿営地における後方支援隊員の様子
(のとふれあい文化センター・穴水町)



レッドヒッポによる資器材及び人員搬送(久手川町)



10月3日 解隊式
(高度専門教育訓練センター)



重機での検索(久手川町)



大阪府土砂・風水害機動支援部隊長
(4巡目派遣)
消防司令長 東條 英史

最初に、今般の災害によってお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方に対しましてお見舞い申し上げます。
本災害につきましては、1月の能登半島地震からの復興途上であるなか、地震と豪雨災害の二重の被災となり、被災者の心情を考えますと、非常に胸が痛みます。

被災地はこのような厳しい状況でありますので、緊急消防援助隊として被災者に寄り添える活動、少しでも力になれる活動を行わなければならないという強い思いで被災地に向かいました。

大阪府隊の活動としては、行方不明者の検索を行うとともに、行方不明者に関する所有物等も同時に捜索し、それらを集めて輪島市の消防署へ届けてまいりました。

最後になりますが、緊急消防援助隊一同、被災地の一日も早い復旧・復興と被災者の方が少しでも早く元の生活に戻られることを祈念しております。

特集

能登地方の大雨災害に対する緊急消防援助隊の活動(後編)



令和6年9月20日からの記録的な大雨による災害により、大阪市消防局の指揮支援隊、航空小隊及び大阪府土砂・風水害機動支援部隊が石川県輪島市等に出動しました。先月号では初期の活動をお伝えしましたが、今月号は後編として、後半の活動と全体の概要について紹介します。

◆ 活動にかかる時系列(9月26日～10月3日)

9月27日

・14時00分 3巡目派遣隊(交代要員)が出発

9月30日

・14時00分 4巡目派遣隊(交代要員)が出発

10月2日

・14時00分 5巡目派遣隊(交代要員)が出発
・航空小隊の引揚げ決定

10月3日

・指揮支援隊及び大阪府土砂・風水害機動支援部隊の引揚げ決定
・大阪府土砂・風水害機動支援部隊等 解隊式の実施



3巡目派遣隊出発の様子(大阪市消防局)

◆ 派遣概要まとめ

【派遣・活動先】 石川県輪島市等
【派遣期間】 9月21日～10月3日(13日間)
【派遣隊】 指揮支援隊、航空小隊、土砂・風水害機動支援部隊 14隊1機
【派遣人員】 大阪府内消防本部 延べ人員271名

◆ 活動概要

13日間の派遣期間の初期は、輪島市等において、河川氾濫などによる被害の状況把握や孤立した地域からの要救助者救出が活動の中心となった。緊急的な活動に引き続いては、輪島市内の海岸を含む塚田川周辺エリアにおいて、土砂からの要救助者救出や行方不明者の検索を実施した。

以下は、各隊の活動概要である。

指揮支援隊

石川県庁において統括指揮支援隊(名古屋市)と活動方針及び災害情報の共有を図ったのち、輪島消防署での指揮支援活動を実施し、2県大隊及び2部隊(土砂・風水害機動支援部隊)の活動管理を行った。

航空小隊

ヘリにより、孤立した地域からの救助活動及び上空からの情報収集活動を実施した。

土砂・風水害機動支援部隊

輪島市において河川氾濫により孤立した家屋からの救助活動及び土砂災害現場等における人命検索活動を実施した。

◆ 指令・動態管理システム

システムは「新規災害登録画面（図1）」「動態管理画面（図2）」「災害一覧画面（図3）」「指令書印刷画面（図4）」「班長用画面（図5）」で管理されています。

・新規災害入力画面（図1）

新しい災害事案を入力する画面で、指令する上で必要最小限の内容が入力できるようになっており、覚知時間、災害種別、住所、災害点名称、概要、通報者情報、災害トリアージ、出場隊の選択を入力し、登録します。出場隊の選択については、動態が「不能」「災害」になっている隊を選択することができなくなっており、それ以外（待機や署外）の隊から選択できるようになっています。指令された出場隊の動態が「災害」へ自動的に変更されるプログラムが入っています。

・動態管理画面（図2）

隊ごとの動態が表示され、いずれかの隊に指令がかかれば、ブザー音とメッセージボックスによる通知機能があり、出張所へ電話連絡することなく指令をかけることができます。また、指令後出場隊が確受ボタンを押すことで災出設定になり、大隊本部で出場したかどうかを確認でき、大隊本部と出張所との連携が容易となりました。また、災害番号をクリックすることにより詳細情報を入力する画面へ移動することができ、無線からの情報を入力するのも容易になりました。

・災害一覧画面（図3）

災害一覧が表示されており、検索から並び替えまで行うことができます。災害の優先度が高い順で並び替えにより、災害トリアージが可能となっています。

・指令書印刷画面（図4）

災害一覧画面から「指令メモ」ボタン、動態管理画面から災害番号のボタンをクリックすることにより、指令書が印刷できる画面へ移ることができます。出場隊は指令がかかれば、この画面を印刷することにより、各地で入手した災害の情報や他の出場隊を把握しながら出場することができます。

・班長用画面（図5）

管内の車両の動態と災害状況を1画面で同時に表示できるようになりました。この画面だけで管内の災害状況や動態を手元で簡単に確認、把握することができるようになり、指揮者の負担を軽減させることができるようになりました。



図1 新規災害入力画面



図2 動態管理画面



図3 災害一覧画面



図4 指令書印刷画面



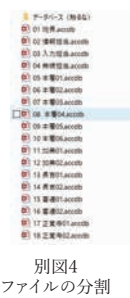
図5 班長用画面

◆ 震災訓練を終えての課題点

9月3日に行った震災訓練の中で当システムを使用して訓練を実施し、いくつかの問題点が出てきました。その中で代表的なものが、10台以上のパソコンで同時操作した場合の動作が遅くなったことと局報告のファイルとのリンクができないことでした。

まずはパソコンの動作が遅くなった問題については、ファイルの分割（別図4）を行ったところ、一つ一つのファイルの負担が軽減され、正常な動作が可能となりました。

次に局報告の問題ですが、そもそも庁内用パソコンと消防情報システムがリンクしていないため、当システムと局報告をリンクさせることが不可能であり、消防情報システムでのエクセルファイルに手動で入力していく必要があります。もし、局報告が以前のように庁内用パソコンで報告できれば、大隊本部の負担軽減につながり、災害対応に集中できると考えられます。



◆ 今後の展開

今回は、指令動態管理に特化したソフトを開発しましたが、インフラ情報などもアナログ管理をしており、このインフラ情報に対してもAccessを使用したソフトの開発に取り組み、大隊本部運用のDXへの挑戦を続けていきたいと思っています。

令和6年度 消防局職場活性化 推進事例発表会



2024.9.18

最優秀賞

震災用大隊本部 指令・動態管理システムを作成

平野消防署 DX推進会議



震災について考える令和6年

元日に能登半島地震が、8月8日に日向灘地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表と令和6年は地震の1年となりました。もしも大阪で巨大地震が発生すれば、災害が多発し警防本部において消防部隊の集中統制ができなくなった場合、大隊本部長（署長）が所属消防部隊の運用を行うこととなり、各消防署は災害の対応に迫られることが想像されます。では、今の警防体制で震災に対応できるのか、この地震を契機に考えてみました。

◆ DXによる大隊本部運用の取組

大隊本部では、ホワイトボードで管内の災害一覧や警防情報、動態などを手書き・手動で管理していました。そのためホワイトボードでは2時間分の情報量だけで埋め尽くされているのが実情です。震災は数日～何か月までの長期間にわたるため、2時間で埋め尽くされてしまう現状では、すべてを管理していくのが困難だと思いました。

アナログでの作業が多く、どんなに無駄を削ったシンプルな大隊本部運用を考えてもアナログでは、管理できる情報量には限度があります。そこで、DXによって、情報整理が効率化され、体系的に管理することにより解決できるのではないかと考え、ソフトの開発に取り組みました。



DX推進会議のメンバー

◆ 使用ソフト「Access」について

指令・動態管理システムでは、windowsソフトの一つである「Access」を使用しました。この「Access」というソフトは、個人や小規模なビジネス向けのデータベース管理ソフトです。その特徴として以下のものが挙げられます。

- ・データを整理しやすい：表形式でデータを管理し、関連する情報同士を結びつけ可能。
- ・簡単な操作でデータベースを作成：プログラムの知識がなくても、データを整理したり、検索したりできるインターフェース機能あり。
- ・自動化やカスタマイズが可能：VBAというプログラムを使って、特別な機能を追加、自動化が可能。
- ・データ検索が簡単：視覚的にデータを検索・抽出する機能があり、複雑な条件でデータを探すのも簡単。
- ・データ入力や出力をカスタマイズ：入力画面やレポートを作成して、データを見やすく、使いやすく整理可能。
- ・チームで使える：ネットワークを通じて複数人で同時使用可能。

優秀賞

雨の日も快適レインカバー

淀川消防署救急担当
(1部第1救急隊)



発案の経緯

雨の日の救急活動で使用するレインカバーは、傷病者の顔に張り付いて不快感や圧迫感を与えていました。この状態を防ぐため、救急隊員が顔の部分を持ち上げ空間を作ると、携行する救急資器材とで両手が塞がり、転倒等につながる危険性がありました。

雨天時の問題点解決へ～三本柱をもとに実用性を検証～

検証のための三本柱（重要ポイント）

- ① 傷病者から見た有益性
- ② 使用する際の簡便さ
- ③ コスト面

ベテランから若手まで重要ポイントをもとに意見を出し合い、救急資器材や消防署にある身近な備品を活用して工夫できないかと、試行錯誤した結果、コロナ禍で飛沫の拡散防止のために配布された「ストレッチャーシールド」という資器材の支柱を利活用する方法を思いつきました。そして、この方法がいかに実用的であるか、実際に署員に使用して検証しました。



従前のレインカバー使用時



ストレッチャーシールドの支柱



検証：ストレッチャーシールド使用時

傷病者役（署員）は…

- ・不快感や圧迫感が軽減された。
- ・顔の部分に空間ができるため、呼吸がしやすくなった。
- ・蒸し暑さが軽減された。

救急隊員は…

- ・狭隘通路をストレッチャーで通過する場合も片手が空くため、搬送しやすくなった。
- ・転倒等の危険性が減った。

問題点解決!!

まとめ

従来、雨天時における、屋外のストレッチャー搬送では問題点が多く見られましたが、この現有資器材の一部を活用する方法では、傷病者の不快感や救急隊員の負担が軽減するだけでなく、安全性が向上した迅速な救急活動が可能となり、雨の日の救急活動に対する安心感に繋がると実感しました。また、コストがかからないため各隊が導入しやすく、広く普及できると考えています。

皆さんも是非一度！「雨の日でも快適レインカバー！」を活用してみてください！そして、各隊が様々な問題点を改善していくきっかけとなれば幸いです。淀川消防署はこれからも傷病者ファーストを忘れず、より良い活動を追求していきます。



淀川消防署救急担当
(1部第1救急隊)のメンバー

優秀賞

タイヤのQRパーティ☆kintoneで全員集合！

北消防署 QRマスターズ



発案の経緯

当署で管理・運用する車両は、予備車を含む18台。この多くの車両の適切な管理・運用と、それに伴う多くの情報を管理・共有するために、非常に多くの手間と時間を必要としていました。



北消防署 QRマスターズのメンバー

◆ アナログからの脱却!!

これまでのアナログ的な事務処理や非効率的な業務のあり方からの脱却!!とストレスからの卒業、更には、ICTの進化が止まらないこの時代に『何か簡単に誰もが参加できるものは無いかな?』『絶対あるやろ～』と言う発想から、私たちの挑戦がはじまったのです。

この挑戦にあたって、第一に『すぐに入力ができる』『入力が簡単』『誤入力の防止』『一目瞭然で共有ができる』＝車両の適切な管理・運用を条件にしました。次に、いきなり壮大な発想のもと、すごいものを作るのではなく、この取組を見て・聞いて誰もが挑戦してみたいと思える、そんな身近なものの取組から検討を始めました。

そして、最もタイヤの消耗が早く適切なローテーションが求められる救急車のタイヤ管理に焦点をあて、当署にある6台の救急車のタイヤ管理アプリの開発を行うことになりました。

◆ タイヤ管理アプリ『kintone』について

そこで目を付けたのは『kintone』です。kintoneは、通常のシステム開発で必要となるプログラミング等の知識が無くても、ドラッグアンドドロップ等の簡単な操作のみで、直感的に誰でも簡単に業務アプリケーション（システム）を作ることができるシステムです。

このシステムで、テンプレートを使用し、必要な項目をカスタマイズすることにより約1時間でアプリが完成しました。

完成したアプリは、立ち上げに時間のかかるパソコンは必要なく、スマートフォンを使用した簡単入力で、タイヤの溝の深さや製造年週などを点検したその場で入力することができます。入力作業はわずか1分程度で必要な情報が完成します。

入力したデータはテーブル形式で表示され、各車両に積載されたQRコードを読み取ることで簡単にアクセスが可能でデータの入力・閲覧もあっという間にできます。



アプリ作成画面

◆ 取組の成果

この取組により、タイヤ点検結果の報告にかかる時間が大幅に短縮され、当然ながら、誤記や誤入力のリスクも激減しました。

そして各隊のタイヤ管理が適切に行われ、共有されていることから、タイヤ交換のタイミングを逸することもなく、タイヤ購入に関する契約事務もスムーズに行うことができています。



アプリ画面

◆ 未来への展望

今後は、車両管理に必要な情報全般を適切に管理し、そのデータを活用して様々なメンテナンス等に生かしたり、資器材・訓練記録等々のデジタル化にも多岐にわたり展望は開けていくと思っています。職員一人一人が、この取組に興味を持ち様々な発想が生まれ、デジタル化が当たり前となり事務の効率化・最適化に繋がれば、短縮できた事務時間を活用して仕事への意欲や取組がますます向上し更なる相乗効果を生むこと間違いなし!!

攻めの公開で 事務量激減・安全性向上

此花消防署 いったれクインテット



ホテルの防火安全に関する修学旅行関係者等への回答書交付事務の簡略化を図った事例です。

ホテル関係者に了承を得て、ホテルの防火に関する情報を予め消防署HPに掲載しています。旅行関係者からの照会依頼があれば、本HPへ案内する書類を返送する運用に変更した結果、公印審査等が不要になり大幅な事務時間短縮に成功しました。



いったれクインテットのメンバー



有名テーマパーク周辺のホテル群

GISからGSIへ！警防情報の デジタルトランスフォーメーション

水上消防署 DX



水上消防署では大阪市内河川の消防艇運用において、紙ベースの航行支援地図をGSIで管理することで、障害物情報をリアルタイムで更新・共有しています。GPS利用により位置関係の確認が容易になりました。このGSIはさまざまな活用ができ、この取組を行ったことで、業務や災害現場活動の効率化・簡素化を図ることができました。



DXのメンバー



GSIの活用例

QRコード on ヘルメット

福島消防署 team Quick Response



立入検査等の署外活動中に、市民に対し各種案内をより早く簡便に行えるツールとして導入した、取組です。

《市民に大好評！》
今は日勤のヘルメットですが「火災に遭ったら」などの項目を増やし、現場用のヘルメットにも活用していく予定です。

すぐに作成できますので、みなさんお気軽にお問い合わせを♪



Team Quick Responseのメンバー



取組の様子

北消防署ハッピーフレーズプロジェクト FeaturingNICT & OASIS

北消防署 北救急隊コミュニケーション・ハッピークルー



北救急隊では外国人傷病者の対応が課題となっていました。そこで、大阪市で導入されているAIアシスタントOasisを使用し分析することで、頻度の高い英語のフレーズを特定しました。それを救急あるあるフレーズとして携帯し、シミュレーション訓練を実施した結果、迅速な傷病者対応、搬送連絡が可能となりました。



北救急隊コミュニケーション・ハッピークルーのメンバー



訓練風景

アイデアの輪を広げていく

業務改善応援室

今年度は昨年度と同件数となる、過去最多タイの153件もの応募をいただきました。

この応募数は、皆様の業務改善に取り組む熱意の表れだと考えております。今回発表会で披露された8事例をはじめ、応募していただきました全ての事例が、新たな視点に立った素晴らしいものでした。

これら応募していただいたアイデアを発表会で終わらせることなく消防局全体に広げていくため、今後もニュースレター「こちら『消防局業務改善応援室』です！」などで事例の紹介など情報発信に取り組んでいきます。

皆様も小さなことから業務改善に取り組んでいただき、業務の効率化を図っていきましょう！



消防局業務改善応援室
5代目室長 宮武 諒成

特別審査員賞

伝言メモアプリ はじめました

浪速消防署 それ、アプリにお任せ。



開発のきっかけ

伝言メモアプリ開発のきっかけは、ある職員のこんな何気ない一言からでした。

職員A：「市民から折り返しの電話が掛かってきてもこちらの誰がその市民に電話をかけたのか分からず市民を困らせてしまうことがよくあるんですね。」

◆ 何気ない会話からアプリ開発へ

職員Aの何気ない一言が気になり、もっと掘り下げて聞いてみることにしました。

職員B：「その話ちょっと詳しく聞かせてくれへん？」

職員A：「うちの職場って毎日勤務者と1部・2部の隔日勤務者がいるじゃないですか。それぞれが別々に仕事をしているので、もし市民に電話を掛けて不在だったとしてもその旨を身近な職員にしか伝言してくれなくて。しかも、全員が毎日出勤していないので、事務所で「〇〇株式会社に電話した人いますか？」と聞いても誰も心当たりがないということもよくあるんです。」

職員B：「なるほど。それ、kintoneのアプリで解決できるかも！」この会話をきっかけに伝言メモアプリの開発が始まりました。



それ、アプリにお任せのメンバー

◆ 伝言メモアプリが生み出した利点

大阪市が導入しているkintoneを使い、電話をかけた内容を記録できる『伝言アプリ』とその内容を誰もが確認できる『メモアプリ』を開発しました。

こだわったのはその利便性。入力に手間取るようでは職員に浸透しないと考え、日付はカレンダーから入力するように、担当や用件はラジオボタンやプルダウンから選択するようにし、慣れればものの1分で完了できるような簡単な入力方法にしました。

その他にもkintoneを利用してアプリを作成することにより、

- ・ExcelやWordと違い複数人が同時に入力することが可能
- ・編集中のまま誰かがログアウトして入れないということが発生しない
- ・入力中に過去の不在電話記録を誤って消してしまうことやファイル自体を削除されてしまうことがない

などのメリットを生み出すことができました。

そうして、浪速消防署で運用が開始されると、皆が不在電話記録を残すようになり、電話者不明トラブルを限りなくゼロに近付けることができました。



伝言アプリ



メモアプリ

◆ kintone普及への第一歩

大阪市ではDXを積極的に推進しているところです。

今回、特別審査員賞を頂いたことで、消防局でもその認知度が高まりkintoneが広まるきっかけとなることを期待しています。例えば、申請や承認ができるアプリも作成できるので、現在紙で申請している業務をkintoneで電子化することが可能です。また、資器材管理などのアプリも作成できるので、日報の作成や各種集計作業をサクッとこなすことも可能です。

是非みなさんも、kintoneを使って一緒に業務効率を高めていきましょう。